

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100518
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム さくらが丘
所在地	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘4丁目1番7号 (電話) 099-265-3700
自己評価作成日	平成25年10月30

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近隣にある託児所とのふれあいや地域のお祭りや桜ヶ丘文化祭の出展・参加を通し地域と交流を深める取り組みを行なっています。また、地域のゴミ拾いに参加しております。

・ホームの庭には花々や季節の野菜を育て、テーブルにはその時期の花々を飾り四季を感じていただける環境作りに努めています。お花見やコスモス見学など季節感を感じることが出来る行事を計画し施設内だけの生活ではなく、外出する機会を増やす取り組みをしています。

・入居者一人ひとりの生活歴やその方の生活スタイルを尊重し、家庭的な雰囲気の中でいつまでもその方らしく生活できることを念頭に置き、職員一丸となり支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○立地環境はバス停から2～3分の県道沿いで、駐車場も前庭が広く整備され、家族や友人の面会にも便利な場所となっている。また、両隣には医療機関があり、緊急時の受診など安心した運営にもつながっている。近くにはAコープはじめ商店街や中央公園があり、外出の機会にも恵まれている。

○理念にある「笑顔のたえない生活環境」が、菜園・花園づくりや室内には合作の作品の展示、また、自立支援のため嚙下体操はじめ起立体操の実践にも常時取り組んでいる。懐かしいメロディーが常時流れ、大きな字で歌詞も掲示されており、いつでも歌える環境等、随時にくつろげる雰囲気作りの工夫がなされている。

○介護者は生活体験を経た熟練された職員で構成されており、若い管理者は多様な意見を取り入れようとする柔軟な姿勢が見られ、チームワークもしっかりとれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念の唱和をし職員間で共有を図り、地域密着型サービスの意義を職員全体で確認しケアに取り組んでいる。	3つの理念は、開設時の8年前から職員が目標にして努力を重ねており、共有するために朝礼等で確認し合っている。利用者の笑顔が1・2階ともに見られ、種々の健康体操などを行いながら元気の良い声が響き渡っている。日中は多くの利用者はリビング等で過ごし、夜具はたまたまれ居室の掃除も行き届き家族の安心満足につながっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として資源回収への協力や町内会への加入、地域の行事（地域の運動会、桜ヶ丘文化祭、夏祭り等）に積極的に参加をしている。	町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。毎月発行の「さくらが丘たより」に地域の行事等を掲載して家族・地域に配布し、ボランティアの協力も得て参加している。また、参加の様子が写真やコメント等で掲載されており、利用者の家族との会話にもつながっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎月のたよりを町内会へも配布している。民生委員の方へ運営推進会議への参加をお願いし理解を深める努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時は、ホームでの取り組みや、ご家族との意見交換を通してサービス向上に活かしている。また地域包括支援センター職員や民生員の方へ参加をお願いし日頃の活動や利用者の状況を報告する機会作りを行っている。	会議は、仕事をもっている家族の利便性を考慮し、2か月ごとの土日に開催され、14～15名の家族が参加している。特に家族会は開かれていないが、この会議が意見交換・交流の場となって有効に機能している。メンバーには民生委員・包括支援センターの職員も入っている。外部評価の結果は掲示し、コピーして全家族に配布している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所訪問時は、毎月のたよりを持参し、地域包括支援センター職員の方に、2ヶ月ごとの運営推進会議の参加を働きかけている。	地域包括支援センターの職員の方を運営推進会議のメンバーとして位置づけ、参加の案内をしている。欠席の場合は月1回発行のホーム便りを持参し、会議内容の報告を行っている。必要な時は随時訪問して、意見や情報の交換を行うなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に一度、身体拘束廃止のマニュアルに添って勉強会を実施し意見交換を行なっている。職員共通認識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止マニュアル」が整備され虐待防止と身体拘束防止を交互に毎月、勉強会を開き職員の理解を深めている。全職員が身体拘束をしないという共通認識に立って、安全を確保しながら利用者の日々の自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一度、ミーティング時に虐待防止の勉強会を行っている。高齢者虐待防止法についても取り上げ、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についての研修に参加しミーティング時共有することで理解を深めることができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に十分な理解を得るために契約の内容を丁寧に説明し理解、納得していただいている。不安や疑問点を尋ね詳しく説明が行なえるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から意見や要望を気軽に伝えられるような雰囲気作りを日頃から心がけている。意見箱の設置を増やし、ご家族からの意見を多く取り入れ運営に反映している。利用者の方は、日々の生活の中から要望をくみ取り運営に反映している。	入所時に把握した意見と合わせ、家族からは面会時や推進会議等で話しやすい雰囲気づくりに努めて多くの意見・要望等を頂いている。利用者からは日常の会話や表情、態度から意見や思いを汲み取るように努めて具体的に支援に反映している。また、いつでも意見が出せるように数か所に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティング時だけでなく、日頃、職員が思いついた些細なことでも話し合えるような関係作り、雰囲気作りを心がけている。	管理者は職員がミーティング、勉強会、朝礼等で自由に意見が出せる環境づくりを心掛けている。把握できた意見は運営に具体的に反映させ、業務改善や仕事に対する志気の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせる環境作りをしている。向上心を持って働けるよう、必要な研修への参加を勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修への参加を勧め研修機会を確保する計画をたてている。ミーティング時の研修報告や報告書の閲覧ができるようにし職員全員が共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流が図れるように法人内外の研修への参加を勧め、サービスの質の向上が図れるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、その方の不安や要望を把握するよう努め、その方の思いに向かい合い、信頼しあえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安な点や要望を十分聞き、ご家族、入居者共に安心して生活が送れるよう信頼しあえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所への見学や入居前の面会や情報をもらい、その方に必要なサービスを見極め、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を支援するのみの立場と捉えるのではなく、共に生活し支えあう関係であると職員全員が共通認識し関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日々の様子や受診後は、その都度報告するようにしている。信頼関係を築くため、日頃からコミュニケーションや情報の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや、近所のスーパーへの買い物等の本人がこれまで大切にしてきた場所への関係性が途切れないよう支援に努めている。	入所前に築いてきた馴染みの関係等は本人、家族からの情報提供書で把握している。友人の面会やお届け物もあり、家族にも報告するなど途切れのない関係が保たれている。また、馴染みの店での買物や散髪も利用者の希望に応じて適切に支援がなされている。墓参りは家族の協力を得て希望に沿って実現出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶時やレクリエーションの際は職員が間に入り橋渡しをすることでコミュニケーションを円滑にし利用者同士が関わりあえるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にサービス利用が終了しても相談や支援に努めている。他の事業所へ移られても面会に行くなどし交流を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常日頃から良好な関係作りを心がけ、思いや意向を伝えやすい環境作りに努めている。また困難な場合は、日常生活での様子や言葉からくみ取るよう心がけている。	日常的に会話や表情を通して、思いや要望を汲み取るよう心掛けている。失語症のある利用者とのコミュニケーションは、日々の動作や情報提供書による生活歴等から要望を汲み取るようにしている。帰宅願望の強い利用者には、落ち着かれるまで寄り添う等工夫して気持ちの安定を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションを通し、その方の生活歴や馴染みの生活を把握し、これまでの暮らしが少しでも継続できるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通し、一人ひとりの状態を職員間で共有し、できることに注目し総合的な視点でケアを提供できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファや担当者会議を通し現状に即した介護計画作成へつなげている。面会時や電話での報告時に家族の要望を聞き、本人も含め意見交換を行ない介護計画へ反映できるよう心がけている。	本人、家族を含めたケアカンファレンスや担当者会議できめ細かに要望を聞き取り、現状に即した介護計画を作成している。また、以前の方法から月に3人の利用者を時間をかけて分析するように変更した結果、モニタリングがより具体的に効果的なものとなり、介護計画作成に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子やケアの実践、気づきを記入し身体状況や医療の記録も職員で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診や買い物、外出などの本人の希望や、ご家族の要望に対し柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の託児所の子供たちとの交流や運営推進会議時の地域包括支援センター職員や民生員、警察官の方々へ参加をお願いし意見交換する機会を設けている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族希望のかかりつけ医となっている。状況に応じ、ご家族の同行を頂きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、本人や家族の意向を大切に決められている。また、隣接の内科医とも協力体制が築かれ、かかりつけ医との連携ができています。全利用者に循環器系、整形外科系の疾患があり、月1回の定期受診は家族の協力も得ながら行われている。施設で通院支援を行った場合、受診結果は速やかに家族にも報告がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に、いつでも相談し助言を受けられる関係作りができており、適切な受診や看護を受けられるよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、できるだけ早い退院ができるよう努めている。入院した際は、面会を通して状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化や終末期に向けた指針」を作成し事業所でできないことを明確にし、入居時や運営推進会議を通し話し合い説明している。レベル低下に応じた対応をご家族へ説明している。	「重度化や終末期に向けた指針」を作成して全家族に配布し、現時点で対応が可能なこと、不可能なことを明らかにして納得して頂き同意を得ている。看取りについては協力医療機関と月1回検討会を開き十分に話し合いを行い処遇を決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や心肺蘇生訓練を受講し、実践力を身に付けている。また、マニュアルに添った対応を職員が理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の分遣隊の指導の下、年2回、昼・夜想定を含め消防訓練を実施している。緊急連絡網により近隣のスタッフが駆けつけることができる体制作りとなっている。</p>	<p>マニュアルに沿って夜間を含めた消防避難訓練を行っている。両隣が医療機関で協力体制に恵まれた環境にある。また、水・缶詰・インスタント食品等の保管とともに、日頃持ち込みの電気製品の点検も適切に実施されている。災害非常時は、近隣に居住している職員を中心に迅速に対応できる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握し、その時々 の状況に応じた言葉かけや対応 を心がけている。またスタッフ 同士、言葉遣いについて注意し 合うようにしている。	日頃から丁寧な声かけを実践しており、 個々の性格を把握し言葉づかいや声量な ども十分に気を付けている。特に入浴、 排せつは個人の特徴やリズムをつかみ、 誇りを傷つけないように対処している。 利用者ごとの対応で気づいた時は職員同 士で注意し合い、カンファレンスの際に 全体で改善するような環境づくりを整え ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり、自己決定できるように働きかけ ている	日常生活のかなで本人の思いや 希望を表出できるよう日頃から コミュニケーションを重ね信頼 関係を築き自己決定しやすい環 境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	可能な限り、本人の希望にそっ て、その日、その時の気持ちを 尊重し、できるだけ個別性のある ケアを提供できるよう心がけ ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるよう支援している	洋服は、なるべく、ご自分で選 んでいただき、外出の際だけで なく日頃から身だしなみや、お しゃれに気を配れるよう支援に 努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	一人ひとりの好みを把握し、工 夫することで食事が楽しめるよ う支援している。片付けや食事 の盛り付けの手伝いを利用者と 共に行なっている。	献立は利用者の希望を聞き、当日に決め て利用者と一緒に近くのスーパーに買出 しに出掛けている。可能な限り下ごしら えや配膳・下膳などを手伝って頂き、食 への関心や満足につながるよう努めて いる。食前の嚥下体操は日課になって楽 しく取り組んでおり、職員も一緒になっ て会話を楽しみながら食事をしている。 また、外食や行事食も取り入れて食事が 楽しみとなるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や一日の食事量、水分摂取量を記録することで情報を共有し食事量の少ない方には好みに合わせた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を職員全員理解し毎食後の口腔ケアを行い誤嚥性肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し自ら言われない方は、表情や行動から判断し声かけ行なっている。全介助の必要な方もトイレ介助を行い、オムツにしない取り組みをしている。	原則としてトイレによる排泄を心がけており、排泄チェック表を作成し個々人のパターンを把握して、声掛け誘導を行っている。脚力ははじめ筋力低下を予防するために起立体操、軽体操、外気浴、日光浴など日頃から積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、水分摂取量の把握やヨーグルトや牛乳、繊維物を多く取れるよう食事の工夫をしている。室内体操や起立訓練、蠕動運動を実施し便秘予防に力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	可能な限り、本人の希望にそった入浴支援を行い、全介助が必要な方もシャワーではなく浴槽に浸かれるよう職員が協力し入浴を楽しんでもらっている。	入浴に対するこだわりや拒否などを含め、本人の希望を取り入れ週3回は入浴又はシャワー浴が実施できている。浴槽をまたげない等、入浴できない利用者については、足浴により心地よい入浴気分を味わうことができるよう配慮している。入浴前後の体調チェックや水分補給にも十分配慮がなされ、記録も適切に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや習慣を理解し、その日の体調や希望に応じ午睡を勧めている。入床前はホットミルクなど温かい飲み物を提供し安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	文献表をファイルにし薬の副作用や用法について理解している。受診後は、ファイルを見て確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や得意分野について日々の関わりの中から見つけ出しお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝え、自身が持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	四季折々の花を楽しむための外出や季節感を感じてもらえるような外出支援を心がけている。ご家族の協力を得ながら本人の希望にそう外出ができるようにしている。	協力医療機関のマイクロバスやリフト車を活用して、四季折々の草花を見物に出かける計画があり、家族も参加でき楽しみになっている。また、近くのスーパーや公園には車イス等を利用して散歩に出かけ、街の風景や人の流れなど感じることができ、変化のある生活ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はホームで行なっているが買い物の際は自分の財布から支払えるよう支援している。お金の大切さを理解している方はご家族と相談しながら小額だが、ご自分で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族との関係を大切にするために電話や手紙のやり取りができるように支援し、自室にて安心して話せるようプライバシーにも配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花々や四季の飾り付けを行い季節感を演出している。また飾り作りは、入居者と一緒で作っている。温度計や湿度計を確認しながら照明や空調を調節し快適に過ごせるよう配慮している。</p>	<p>菜園、花園に季節の野菜、花が植えてあり、部屋にも飾るなど季節感を味わうことができている。また、入居者と職員が一緒に作った作品も展示してあり、和やかな雰囲気が感じとれる。室内は慣れ親しんだ音楽が流れ、なつかしい歌詞が大きな字で掲示してあり、すぐ歌える環境になっている。広い畳の部屋でソファも備えてあり、いつでもくつろげる生活環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気心の合う利用者同士で過ごせる空間作りを提供している。居間にはソファを置き、玄関先には、自由に使えるイスを置いている。気軽にホーム庭へ出られるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談しながら馴染みの物や使い慣れた品、また家族の写真を飾るなど本人が安心して生活が送れるよう工夫している。</p>	<p>入所前から使用していたのれん、カーテン、家具などの調度品が持ち込まれ、また家族の写真を飾るなど、今までの家庭の雰囲気が継続するよう配慮されている。室内は昼間は夜具をたたみ整然と片付いていて、清潔な生活環境ができており家族の安心・満足感につながっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所などには、のれんや飾り物などで特徴を出している。物の配置に配慮し安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアサービス提供に努め、朝礼後に理念を唱和しスタッフ全員が意識しながら仕事に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回、地域の掃除を行い、近所の方々と挨拶を交わしたり、地域の行事への参加や近所の託児所の園児たちとの交流も行なっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎月のホームたよりを町内会へ届けホームでの行事や様子を機会ある時にお伝えし、知って頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を行い、サービス向上に活かせるよう職員やご家族、地域の方々（民生委員等）にも参加して頂き意見交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所へ行った際はホームだよりを渡し利用者の様子を伝えている。また、2ヶ月に一回の運営推進会議への参加を地域包括支援センターの方をお願いしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に一回、ミーティングの中で身体拘束についての勉強会を行い、職員が身体拘束をしないケアへの意識が高められるよう努めている。また、センサーを利用し施錠しない取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一回、虐待防止についてミーティングの中で勉強会を行っており、職員の意識を高め虐待を見過ごさないよう、また防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ミーティングの中で勉強会を行い制度の理解に努め、活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、管理者より十分な説明を行ない、ご本人やご家族より疑問等があった場合は、わかりやすく説明し理解、納得して頂けるよう支援している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の来訪時や運営推進会議時に意見等がないか伺い、入居者からの要望があった際はミーティングの中で話し合い反映させている。また、直接話しづらい事もあるので意見箱を設置し意見を出して頂けるようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングの中で職員同士で意見を出し合い、取り入れられるよう努め、運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員各自に研修への参加、資格取得を勧め、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月のミーティングの中で勉強会を行なっている。外部研修への参加を呼びかけ職員一人ひとりのスキル向上が図れるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修や他グループホームへ見学へ行き、ネットワーク作りやサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方が不安等を訴えられる時は、ゆっくりと傾聴し、ご本人が安心した生活が送れるよう支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から不安や要望等があった際は、わかりやすく説明し、いつでも相談できる良い関係作りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人やご家族と面談を行い状態や必要としているケアをスタッフ間で話し合い適切で本人にあったケアが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と一緒に掃除や炊事を行なうことで暮らしを共にし、お互いを支え合う関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診時にご家族に付き添いをお願いし、ご本人とご家族との関係を大切にしながらご本人を支えていけつよう支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の身内や友人の方々が来訪された時は、ゆっくりと話ができ、また気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをこころがけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者一人ひとりを把握し入居者同士の関係が上手くいくよう声を掛け、座席の位置等考慮し、良好な関係が築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族より相談等があった場合は相談や支援を行い関係が途切れないよう支援に努めている。また、他事業所に移られた後も面会を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分の希望を伝えられる方は、その把握に努め、伝えることが困難な方は行動や表情等から思いや意向をくみ取れるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から今までの環境や生活歴を聞き、把握することで入居者への理解につなげられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケアプランやアセスメントを通して生活リズムを把握し、その方に合った生活が送れるよう支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のケースカンファレンスの中で現状やケアについて話し合い意見を出しあっている。また、ご家族の面会時に話し合い意見交換を行いプラン作成に反映できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日の業務に携わったスタッフが入居者一人ひとりの状態を記録に残すことでスタッフ全員が情報を共有できるようにしケアや介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態を把握し、ご家族と協力しながら通院等の支援やサービスを提供し柔軟な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生員や地域包括支援センターへ運営推進会議の参加を呼びかけ意見交換を行なうことで地域で安心した生活が送れるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医がある場合は入居後も継続して受診していただき、ご家族に付き添いをお願いしている。また、かかりつけ医と情報交換を重ね、適切な医療受診ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中で異変時や特変時には看護職員へ連絡・報告し適切な病院受診が受けられるよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、スタッフが様子をうかがいに見舞いへ行き状態把握ができるようにしている。また病院関係者と情報交換を行い早期退院につなげられるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議の中で重度化や終末期について、ホームでできる事を説明し、ご家族に理解していただけるよう努めている。 (ご家族の希望等を書面にて確認している)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、緊急蘇生法や応急手当の講習を受けている。ミーティングの中で勉強会を行なうことでスタッフが実践力を身に付け対応できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練（昼間・夜間想定）を行い、スタッフ全員が避難の方法が身につけられるよう努めている。入居者の方々も全員参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、その人に合った言葉掛けを行いプライドを傷つけない声かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の話を傾聴することで、その方の要望や自己決定ができるよう支援している。また、表情、仕草や行動から感じ取り自己決定が図れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて要望がある場合は、希望に添えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容の時間を大切に、一緒に洋服を選びおしゃれができるよう支援している。また2ヶ月に一回、訪問美容室によるカットを行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みを把握し、食事の盛り付けや片付けを手伝ってもらい、楽しい食事の時間や雰囲気作りができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、一人ひとりの食事量を記録し、足りない場合は、主治医の指示のもと栄養補助食品等で補っている。また、アレルギーがある場合は個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、できない部分の補助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間毎やご本人の訴え時のトイレ案内を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し歩行訓練や起立運動を行ない、スムーズな排便につなげられるよう支援している。また毎朝、牛乳やヨーグルトの摂取を勧め便秘症の方は、主治医と相談し個々に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の声掛けを行なった際、その方の気分や体調に応じ、入浴する日や時間を変更する等、無理強いしない入浴の支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整えるために、日中、軽体操や外気浴を行い夜間の安眠につながられるよう支援に努めている。また日中、ホールソファにてゆっくりとした時間を過ごして頂けるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者一人ひとりの薬の文献に目を通す様にし、薬の副作用や目的を理解し、状態変化には充分注意するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者、一人ひとりの生活歴を職員全員が把握し、その人に合った出来る事を支援している。無理強いしないよう気をつけている。(洗濯物たたみ、食事の盛り付け、掃除など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一年間を通し、季節の移り変わりを体感していただけるよう外出や外食に出かけ、ご本人の希望がある時は、ご家族と相談しながら外出・外泊ができるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々に応じて、ご家族と相談し小額のお金を持っていただき、ご本人が安心していただけるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人より、電話の希望がある時は電話をし、ご家族との会話を通して安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホール内に季節の飾り物を掲示し季節感を感じていただけるよう心がけている。また使いやすい配置や馴染みの物を取り入れ落ち着いた生活が送れるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールソファを設置することで、入居者同士がゆっくりと会話ができるよう工夫したり、ご自分の席で一人の時間がゆっくり過ごせるよう支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、今までご本人が使われていたタンスや家具を持ってきて頂くことで、以前と変わらない生活が送れる雰囲気作りを心がけている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立した生活が送れるように、職員が一人ひとりの状態把握に努め、ホーム内の整理整頓をし安全な歩行や生活が送れるよう工夫している。また、場所が分かりやすい様目印をする工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない